

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：32677

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25870815

研究課題名(和文)内陸部農村の「出移民」と「不動性」に見る現代中国のジェンダー秩序

研究課題名(英文) Gender Reconfiguration of Post-Mao Rural China: Through Emigration and Immobility of Women and Men

研究代表者

大橋 史恵 (Ohashi, Fumie)

武蔵大学・社会学部・准教授

研究者番号：10570971

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国内陸部の農村女性の出移民と不動性についての考察である。中国をフィールドとした従来の実証的ジェンダー研究は、沿海部都市に出稼ぎする女性や、夫が出稼ぎし村に残る女性(「留守婦女」)を取り上げてきた。本研究はこうしたケースのほか、近距離での移動にも目を向けた。山西省でのフィールドワークでは近距離を移動する男女のケースを多くとらえた。高齢になって土地を返納した後の家計困難を解決するため県城で家事労働者として働く女性や、小学校の統廃合のなかで子の就学のために県城に移動する女性など、移動する/しないという選択の背景にはさまざまなジェンダー関係があることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research focused on rural women's emigration and immobility. Existing studies on gender and migration in China have mostly focused on women's long distance migration to economically developed coastal areas, or on so-called "left-behind women" in the villages whose husbands have migrated to such areas. This research paid close attention to short-distance migration as well as long distance migration because in the fieldwork in rural Shanxi, many women migrate short distance such as to county town (xiancheng). For example, an old rural woman who has surrendered her family land to the government now works as a domestic worker in a county town because she and her husband cannot sustain their life in the village without the land. In another example, a woman moved to the county town with her son because his school in the home village was abolished. This research analyzed such cases carefully to understand the gender relations behind women's decision-making of migration.

研究分野：ジェンダー研究、社会学

キーワード：ジェンダー 中国 移動 不動性 長距離移動 近距離移動

## 1. 研究開始当初の背景

中国の農村-都市間移動については、沿海部と内陸部の経済格差にプッシュ-プル要因をとらえるマクロ的研究(厳 2005)、人口流動の実態調査(大島 1996)移動を通じた農民の生存戦略についての質的分析(黄平 1997)など多くの研究蓄積がある。ジェンダー視点による研究も近年になって増えつつある。統計資料にもとづいて女性の移動傾向をとらえるような研究(陸 2009)や、都市における農村女性主体の経験に着目した研究(Jacka 2006, 大橋 2011)などの研究がある。

しかしジェンダー視点に基づく先行研究には、送り出し側から移動をとらえる分析が少ない。この状況は国際移住労働を中心とした移動とジェンダー研究の動向一般にあてはまる。たとえば女性による送金の受け手という受動的側面についてのみ焦点が当てられ、送り出し世帯が移住者の不在にどのように能動的に対応しているかは見落される傾向がある(Toyota et al. 2007)。

中国研究でも移動プロセス全体への関心において農村世帯に目を向ける Fan (2009) などのアプローチをのぞき、送り出し社会についてのジェンダー分析はほとんどおこなわれてこなかった。また移住労働研究では「不動性」(immobility / 移動しない状態)についての考察が抜け落ちてきたことが指摘されており(Hammer et al. 1997) この指摘は中国の移住労働研究・ジェンダー研究にもあてはまる。

### < 参考文献 >

黄平(1997)《寻求生存：当代中国农村外出人口的社会学》，昆明：云南人民出版社。

厳善平(2005)『中国の人口移動と民工——マクロ・ミクロ・データに基づく計量分析』，勁草書房。

大島一二(1996)『中国の出稼ぎ労働者——農村労働力流動の現状とゆくえ』，芦書房。

Hochschild, Arlie (2000) "Global Care Chains and Emotional Surplus Value", W. Hutton and A. Giddens, eds., *On the Edge: Living with Global Capitalism*, London: Vintage, pp.130-146.

Jacka, Tamara (2006), *Rural Women in Urban China: Gender, Migration, and Social Change*, New York and London: M.E. Sharpe.

大橋史恵(2011)『現代中国の移住家事労働者——農村-都市関係と再生産労働のジェンダー・ポリティクス』，御茶の水書房。

陸小媛(2009)『現代中国の人口移動とジェンダー——農村出稼ぎ女性に関する実証研究』，日本僑報社。

Toyota, Mika et al.(2007) Bringing the 'left behind' back into view in Asia: a framework for understanding the 'migration-left behind nexus' *Population, Space and Place*, Volume 13, Issue 3, pages 157-161, May/June 2007.

Fan, C. Cindy (2009) "Flexible Work, Flexible Household: Labor Migration and Rural Families in China," *Work and Organizations in China after Thirty Years of Transition*, edited by Lisa A. Keister, pp. 381-412 (Chapter 13). Emerald Press.

Hammer et al. (1997) *International Migration, Immobility and Development: Multidisciplinary Perspectives*, Oxford: Berg Publishers.

## 2. 研究の目的

今世紀に入って中国の女性移住労働人口は増加し、15歳~29歳の若年層で男性を越えるほどになった。しかし90年代まで移住労働人口のジェンダー比は男性に偏っていた。今日でも30代以上の年齢層では女性の移動は減少するという。「不動性」は内陸部農村における女性のさまざまな社会的配置を理解する上で重要な概念であると考えられる。

そこで本研究は、中国内陸部農村の女性における「移動すること」(出移民)と「移動しないこと」(不動性)の社会経済的意味をジェンダー視点から再検討することで、先行研究に抜け落ちてきた送り出し農村の社会的動態性を明らかにしていく。

## 3. 研究の方法

本研究では、女性の「出移民」と「不動性」という現象を基軸として、現代中国のジェンダー秩序を6つの分析水準(主体、世帯、コミュニティ、送り出しポリティクス、受け入れポリティクス、マクロ要因)において把握し、この秩序における内陸部農村の動態的位置について考察をおこなった。

の水準に関連して、中国内陸中西部に位置する山西省太原市近郊のX県においてフィールドワークを実施し、女性たちが実際に移住労働をおこなう/おこなわないという決断がどのような社会経済的関係のなかでおこなわれているのかを、聞き取り調査をもとに分析した。

については、X県からの出稼ぎが多い北

京や太原において資料収集や、現地研究者や、農村出身女性のエンパワーメントをおこなっている NGO 等で活動するアクティビストへの聞き取りをおこなった。太原市では、山西省内から多くの出稼ぎ労働者を受け入れている富士康 (Foxconn) の工場で参与観察をおこなった。また、X 県の県城 (県の人民政府がおかれる小都市) では移動女性への聞き取りを中心としたフィールドワークをおこなった。については中国のマクロな社会経済構造の変化に着目し、農村女性たちの移動へのインパクトを分析した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 女性の「出移民」(長距離)

X 県は山西省省都の太原から高速道路で 3 時間ほどの距離に位置する農村地域である。本研究では、県内の 6 つの村落および県城において女性の「出移民」と「不動性」の状況を把握した。

研究開始にあたっては、X 県からほど近い都市である太原や陽泉、同じく内陸中西部の大都市である西安、あるいは比較的移動が容易で就労機会が豊富な首都北京への出稼ぎが多いのではないかと想定していた。とりわけ太原市には Apple 社の製品の下請けをおこなう富士康 (Foxconn) の工場があることから、とりわけ若年女性の出移民がみられるのではないかと期待した。

実際、未婚女性のなかにはこれらの地域のサービス業 (ホテル等商業施設) で働いているというケースも散見された。家族が富士康で働いているという事例も 2 件あったが、1 件は未婚男性で、1 件は未婚女性だった。これについて、あわせて富士康の工場における労働者リクルートの状況を参与観察によって確認した。目視で把握した限りでは、高校卒業程度の学歴をもった男性がやや多かった。女性は全体の 4 割程度を占めているようだった。富士康の内部関係者に対しては聞き取りができなかったため詳細はわからないが、リクルートの仲介をおこなっている業者によれば、山西省内でもやや遠方の地域からの出稼ぎがほとんどであるという。

既婚女性については、長距離での出稼ぎのケースはほとんど見られなかった。例外として、売買婚の結果として貴州等からこの地域に「嫁いで」来た女性が、「不在になっている」というケースを 2 件聞いた。1 件は浙江省に出稼ぎに行っており、もう 1 件は貴州に戻っているということだった。本研究の想定を越えて、農村のジェンダー関係の複雑さに気づかされるケースであったが、実際には詳細の聞き取りはかなわなかった。

##### (2) 女性の「不動性」

フィールドワークで見聞きしたケースでは、20 代から 40 代の既婚女性は農作業を担いながら家で過ごしているケースが多かった。とりわけ子どもが小さい場合は、子どもを残して (「留守児童」) 父母が出稼ぎをしているケースは見られなかった。ただし、村を出たことがないという女性は多くはなく、かつて太原市や陽泉市、X 県県城等での出稼ぎを経験した女性が大多数であった。

夫が現在出稼ぎ中という女性 (いわゆる「留守婦女」) も同様であり、自分は村に残り、家のことに専念しているということだった。こうした「留守婦女」のケースでは、夫は太原市や X 県県城など、数時間で行き来できる距離での出稼ぎをしていた。実際には数ヶ月に 1 度戻ってくるというパターンが多かったが、携帯電話を使って日常的にやりとりしており、常時不在であるという感覚はかならずしも強くなかった。これは X 県の地理的状况に起因するものと思われる。

また、夫の出稼ぎは子どもが大学等を卒業して自立するまでという回答が多かった。ただし子どもがすでに働いていても、現金収入を得られるうちは夫が出稼ぎするというケースも何件かみられた。(3) で見るように、老後に農業をできなくなったときの経済的状况を考え、働けるうちに働くべきだという考えもあるように見受けられた。

##### (3) 女性の「出移民」(近距離)

本研究では、近距離移動により注目することで「出移民」と「不動性」の選択の背景にあるジェンダー関係の複雑さにも目を向けることができた。

聞き取りの過程で、既婚女性の移動は、男性に比べても短距離が中心であることに気づいた。このことは Fan(2000) などでも指摘されている事実であり、注目に値すると思われた。そこで県城など同一地域で経済的・社会的に発展している小都市と、農村とのあいだを行き来するかたちでの移動を選択する女性たちのことを、重点的に考察することになった。

こうした移動を選択する女性たちのケースとしては、2000 年代以降に内陸部農村における小学校の統廃合が進むなかで、子どもの就学を継続し、よりレベルの高い教育を受けさせるために、夫と離れて県城で暮らすことを選んだ女性がいた。このように就労目的ではないが必要に迫られて移動するケースもあることが窺えた。彼女の周辺では村に学校がないために子どもとともに移動するというのは珍しいことではないということだった。

別のケースでは、高齢になって夫とともに

農業継続が不可能になり、耕地を政府に返納した 65 歳の女性がいた。農業を続けることはできないものの、老後の生活を支えるには収入が必要であると判断した彼女は、2 年前から県の 80 代の女性の家で家事労働者として働いている。家事労働者の雇用においていわゆる「老老介護」が起きている状況である。また、彼女自身、70 代になっている夫の身体の状態が悪化すれば、村に戻らざるを得ない。農村地域におけるケア・エコノミーが女性の短距離移動とどのように結びついていのかについては、今後も議論していく必要がある。

いずれも、農村の社会経済状況において困難を抱えた人びとのなかで、女性が近郊の経済圏に移動することによって事態を改善しようという世帯戦略といえる。こうしたケースについては研究が進んでおらず、今後継続して注目していくことが重要だと思われる。

#### < 参考文献 >

Cindy Fan (2000) "Migration and Gender in China", in Chung Ming Lau and Jianfa Shen ed. *The China Review* 2000, pp. 423-454.

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### [ 雑誌論文 ] (計 3 件)

大橋史恵 「ローカルな労働者と外国人労働者をめぐる問題の連関 「人材」の受け入れと「人」の排除」、『季刊ピープルズ・プラン』査読なし、第 68 号、pp.83-90, 2015.

OHASHI, Fumie "The Construction of the Double Burden: Gendered Childcare System in Post-Mao China" *The Journal of Contemporary China Studies*, 査読なし 4(1), pp. 21-39, 2015.

大橋史恵 「現代中国における再生産領域の再編——農村・都市間の世帯保持とケアの連鎖——」、『中国研究月報』査読あり、Vol.68 No.8、pp.15-29、2014 年。

#### [ 学会発表 ] (計 3 件)

大橋史恵 「中国における親密圏の変容と農村・都市関係 ケアの再私化と「分裂的な世帯戦略」の結びつきに着目して

」第 88 回日本社会学会大会 日中ジョイントパネル「日中における親密圏の変容」, 2015 年 9 月 20 日、早稲田大学(東京都・新宿区)

大橋史恵 「中国フェミニズムのトランスナショナルな展開 2015 年の勾留事件を中心に」, 2015 年度武蔵社会学会、2015 年 7 月 4 日、武蔵大学(東京都・

練馬区)

OHASHI, Fumie, *Intimate Lives around Domestic Workers in China: Care Relations behind Migrants' Split Household Strategy*, Paper presented at International Workshop on "Intimate Lives of Intimate Laborers", March 1, 2015、早稲田大学(東京都・新宿区)

#### [ 図書 ] (計 1 件)

スーザン・マン[著]、小浜正子・リンダ・グローブ[監訳]、秋山洋子・板橋暁子・大橋史恵[訳] 『性からよむ中国史 男女隔離・纏足・同性愛』、平凡社、2015 年。

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

大橋 史恵 (OHASHI, Fumie)

武蔵大学・社会学部・准教授

研究者番号：10570971